

# 箕面市姉妹都市 交流フォーラム 特集号



3月6日(土)14～16時 オンライン開催

## 姉妹都市交流の過去、現在 & 未来を考えるフォーラム



配布チラシ

箕面市には、ニュージーランドのハット市、メキシコのクエルナバカ市との二つの姉妹都市があります。両市との交流をより活発にしていくためには、さらに多くの市民の皆さんのご理解とご協力が必要であることから、夢の実支援金（みのお市民活動支援金）の援助を得て、このフォーラムを企画いたしました。

パネリストとして上島箕面市長、箕面市ハット市友好クラブ（以下、ハットクラブと略す）、箕面メキシコ友の会（以下、友の会と略す）の各代表、オブザーバーとして神代箕面市ハット市友好議員連盟会長、事例報告に倉敷市国際課職員の方々が登壇され、50名近い方のオンライン参加の下、ハットクラブ運営委員の総合司会で進行しました。



総合司会  
ハットクラブ 平井さん

### 冒頭あいさつ



上島市長

第一回箕面市姉妹都市交流フォーラムの開催を心からお慶び申し上げます。パネリストをはじめ、ハットクラブ、友の会の皆さまには、平素から、本市の姉妹都市交流に、多大なるご尽力を賜り感謝いたしております。

本日は、倉敷市役所から、クライストチャーチ市との姉妹都市交流の事例報告をいただいた後、パネルディスカッションの予定です。このフォーラムを、今後、本市の姉妹都市交流を進める上での一助にいたしたいと考えております。

箕面市は、平成7年に、ニュージーランド・ハット市と、平成15年に、メキシコ・クエルナバカ市と、相互理解を深め友好親善関係を築くため、国際協力都市提携を盟約し、以来、様々な市民間の交流活動が活発に行なわれております。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでの開催となりましたが、より多くの市民の皆さまが姉妹都市交流を知り、多文化の理解と国際親善の大切さを認識していただく機会となれば幸いです。

最後に、このフォーラムが有意義な会となり、また、ハットクラブ、友の会のますますのご発展とご活躍を祈念いたします。



姉妹都市とは、自治体国際化協会では、

- ① 両首長による提携書があること、
- ② 交流分野が特定のものに限られていないこと、
- ③ 議会の承認を得ていること、と定めており、

我が国の提携数は、2021年で1,778件に上ります。

自分の町の姉妹都市がどこか、知らない住民もおられ、市民生活とは遠いもの  
だとの印象があるのかも知れません。

そこで



ハットクラブ 阿部さん



# 「未来を見通す鍵は、歴史の中にある」 「世界の連鎖が、歴史をつくってきた」

のテーマで、その歴史を辿りたいと思います。

1955年、日本で最初の姉妹都市が、長崎市とアメリカのセントポール市の間で誕生しました。終戦後、まだ10年しか経過していないこの時期に、両市は、なぜ姉妹都市を結ぼうとしたのでしょうか？

1956年の **People to People Program** は、アイゼンハワー大統領が提唱し、先の大戦の惨禍を2度と繰り返さないこと、東西冷戦下の米ソの和解と世界の平和の実現を目標に、市民間交流を推進する計画で、姉妹都市の根柢の概念です。西側諸国の団結を図り、世界の共産化に対抗して、隣国との軍事衝突を回避して世界平和を実現する崇高な目標が姉妹都市交流にあった事実を忘れてはなりません。その証に、敵国同士であった独仏間の姉妹都市交流は熱心で、被爆地長崎市が選ばれたのも、対米感情を意識した現れでした。

広島市も1959年にホノルル市と締結していますが、太平洋戦争発端の地と被爆地、戦争の象徴たる2つの町が不戦の誓いをしたのです。広島市は、1972年、大戦中の激戦地、ロシア・ボルゴグラード市（旧ソ連・スターリングラード）とも締結、姉妹都市交流に込める平和への願いが伺えます。

歴史はさらに古く、アメリカ・ノースカロライナ州・ニューベルンとスイス・ベルンの間が最初とされています。ニューベルンは、1770年にスイスのベルンからの移民で作られた町で、アメリカ独立前に、誕生していました。

遠く離れた故国を想い故郷の町の名を新天地につけた移民一世の子孫たちが100年の時を経て、故郷の町ベルンと姉妹都市となったニューベルン、その想いと歴史が一杯です。

その時代の人たちの「平和」や「ルーツ」に対する想いや願いが姉妹都市交流に込められていることが、その歴史から見えて来ます。

多文化社会である今日、これからの姉妹都市とは、一体どのような時代を写し出し、どのような歴史を歩んでいくべきなのでしょう  
か？箕面市の姉妹都市の明日を、皆さんと一緒に探っていきたい  
と思います。



# 倉敷市とクライストチャーチ市との姉妹都市交流



倉敷市国際課 中桐さん、 国際交流員 ベンソンさん

倉敷市は1973年に、日本とニュージーランドとの第1号としてクライストチャーチ市と姉妹都市になりました。その後48年にわたり、活発な交流を続けています。きっかけとなった男性は今も日本人の奥様とともに、倉敷市在住で、交流を見守ってくださっています。こうしたキーパーソンが存在があること、ホームステイを中心とした学生の派遣と受け入れを毎年行っていることが、軸となって、交流をささえていると感じます。また、特徴的な交流としては、隔年で行っている障がい者交流がとても心温まるものになっています。

しかし残念なこともありました。2011年のクライストチャーチ大地震です。この時、倉敷市はすぐに独自の救援隊を派遣し、現地の市民団体とともに活動しました。倉敷でも募金活動を行ったところ、約2,000万円もの善意が集まりました。そのお礼にニュージーランド政府関係者も来られ、交流の幅が広がりました。

今度は2018年に倉敷市が西日本豪雨災害を経験した時には、クライストチャーチの市長や関係者が来倉され、激励や寄付をいただきました。また、地震の復興に取り組む担当者が視察に訪れ、技術者同士で貴重な意見交換ができました。

更に2019年にクライストチャーチで銃撃事件が起きました。障がい者親善大使の受け入れ中で、次々と携帯電話に現地の情報が入ってきて、緊張が走りました。その年の学生派遣は希望する学生がいらないのではないかと心配しましたが、今までと変わらない交流ができました。

そして今は箕面市と同じくニュージーランドのホストタウンとして、取り組んでいます。

倉敷市とクライストチャーチの交流は、国際課が事務局となる倉敷市国際交流協会の、団体会員である市民組織が担ってくださいますが、まだ行政の関わりが大きいと感じています。

箕面市ハットクラブ様のように、市民主体の交流や周年事業が行われることが、次の段階の交流だと思います。キーパーソンの高齢化と、グローバル化が進む中で姉妹都市としてのアドバンテージをどのように生かしていくかが、倉敷市の今後の課題だと感じます。

長年積み重ねてきた交流を更に発展させていけるよう今後も取り組んでいきたいと考えています。

## CH市との姉妹都市交流の特徴

- 1.日本とNZ国の姉妹都市第1号
- 2.学生・障がい者交流などの充実した交流
- 3.交流を支える市民組織の充実
- 4.震災支援による更なる友好関係の構築
- 5.NZのホストタウン

## 上島市長からの質問

プレゼンを拝聴し、とても共感いたしました。40年近くの交流とのこと、担い手の高齢化の問題は、どこでも同じだと思うのですが、後継者育成について、決め手は何でしょうか？

## 倉敷市の回答

これが決め手だと言う事ではありませんが、ある意味安心しているのは、子供たちの引率者に若手を選び、他の交流の際にも、その人達に、声掛けし易くなっており、より関心を持ち、前向きに、育っていただければと考えています。

# 箕面市の交流紹介

最初に、上島市長から「市の交流について」説明がありました。

**ハット市**とは、1995年7月、市民が主役の国際交流と相互理解を目的に、国際協力都市提携を締結しました。文化はもちろん教育、経済、人権、環境など、社会の様々な問題について、ともに考え、取り組む幅広い交流を目的に、四半世紀にわたり、延べ300人以上が相互に往き来し、学校間におけるスカイプ交流も続いています。これまでの長きにわたる様々な分野での交流継続は、ひとえに、ハットクラブの皆さまの市民間交流のお蔭です。

**クエルナバカ市**とは、1992年からモレロス大学の研修生を受け入れ、日本でのホームステイや文化交流などの市民間交流が始まりました。現地で箕面クラブが結成され、当市でも、ホストファミリーを中心に友の会が結成されました。2003年に国際友好都市となり、研修生は、180名にものぼり、日本と

メキシコの相互理解、友好親善の架け橋として各方面で活躍されており、毎年開催されている「メキシコ文化の夕べ」は、陽気な音楽と踊りで盛況で、私も毎回参加しております。

四半世紀にわたる交流は、友の会の皆さまの努力と、クエルナバカ市駐日名誉親善大使である深原稔先生のご尽力の賜物です。

モレロス大学生の受け入れを箕面市に要請したことから始まった国際交流の芽は、今や、両市にとっては、無くてはならないものになっております。

姉妹都市交流は、皆さま一人ひとりの思いが、支えとなり、ここまで、受け継がれて来ました。本日のフォーラムでは、ハット市・クエルナバカ市両市、ハットクラブ、友の会の発展に資する実りある有益な意見交換が出来ますよう楽しみにしております。

## ■ ハットクラブの発表 ■

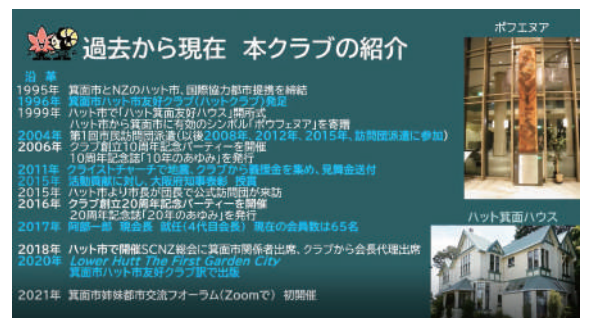
### ▶ プレゼンテーション I 「過去から現在、本クラブの紹介」

まず1996年に民間のクラブとして発足の沿革から始まり、2018年にハット市で開催のNZ姉妹都市協会の総会にハットクラブから出席の様子、2020年に **Lower Hutt The First Garden City** をハットクラブが翻訳本出版の報告を。次に現在の定例活動としての英会話サロン、会報、等のことを。そして例年事業としてのお花見、ALT・CIR 歓迎会、NZ ワイン試飲会、多民族フェスティバルの NZ

ワインバー、キウイパーティー等のイベントの活況をパワーポイントを使いビジュアルに紹介しました。



ハットクラブ 六角さん



パワーポイントで活動紹介

### ▶ プレゼンテーション II 「本クラブが未来にめざすところ」

当テーマに沿い、運営委員全員の意見をまとめて、3例のスローガンと付随する要旨をパワーポイントを使い説明しました。

#### 1. 若い世代の会員を増やすことに関しては

- ① 異文化体験や世界平和に関心を持つ人をハット市への興味に誘導すること。
- ② Zoom で両市の青少年が連携学習を実施し、親世代にも共感の誘発を望むこと、等です。

#### 2. ハット市との直接交流をより盛んにすることに関しては

- ① Zoom を利用して両市民の直接交流を促進すること。
- ② スポーツを通しての両市民の交流の援助をすること。
- ③ 以前のように行政が、箕面市の中高生をハット市に派遣を要望すること。
- ④ 国際交流協会の支援や協働を得て人や事業のネットワークの強化を図ること、等です。

#### 3. NZとの国際親善に、より関心を高めることに関しては

- ① 若い世代の人たちが楽しめるような国際親善交流パーティーを開催すること。
- ② 提携30周年にはハット市を訪問し親善交流を深めること、等です。

今後の希望としては、行政上の姉妹都市関係と民間クラブの姉妹都市交流が、ベース上異なることをフォーラムに参加の皆さまが認識されているかどうか心配な中、この機会に若い世代3名の新入会者がありましたことは、当フォーラムの成果と言えるでしょう。また今後の活動の中で、行政や関連団体との協働の実施に、進展があることを望んでいます。



スカイプ交流



キウイパーティー

## ■ 友の会の活動と課題 ■

### Bienvenidos a “Minoh MEXICO Tomonokai” .



友の会 木村さん

永遠の春の街・クエルナバカ市と、みどり子どもを育む町・箕面市の架け橋と位置づけ、多文化共生社会実現の一環として、メキシコ文化の紹介や、交流を続けているNPOグループです。

発足のきっかけは、市長の説明の通りで、本年で29年目を迎え、

現地で留学生 OB・OG で結成されている「箕面クラブ」の会員は200人を超え、両市民の交流に大きな役割を果たしています。毎年秋の「メキシコ文化の夕べ」、メキシコへの交流旅行、箕面祭りへの出店、多民族フェスティバルでのメキシコ料理や文化紹介の出店等々、市民による血の通った国際交流活動を行っています。

組織の『機会と強み』ですが、箕面市の関係諸団体、現地大使館等のメキシコ関係諸機関との協力体制は強固であり、様々な日墨交流活動の企画・開催が可能な環境にあります。また、現地の「箕面クラブ」とは、盤石な協力関係体制が敷かれている点が挙げられます。

反面『脅威や弱み』ですが、SNS の普及により、気軽に外国人と交流出来る時代となり、団体所属より個人での活動が主流となり、団体への所属より、より自由な活動を好む傾向があり、会員数の減少傾向は顕著です。また会の役員や事務局の固定化と高齢化により、活動内容が定型化（マンネリ化）し、若干の倦怠感があるのも事実です。この様な環境の下、未来に向けてどのようなことができるのか。例えば、留学生受け入れプログラムで、箕面市民との直接交流が生まれるために内容をより精査すること、

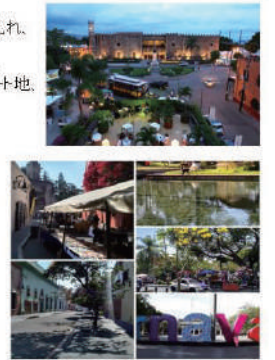
他の国際交流団体との連携強化を図り、共同事業の企画立案と実施に向けた体制づくりを行う等、箕面市への来訪、在住外国人に対し、市民個人の知識や経験をいかす機会の提供を多くして、眠っている資源の活性化を促すことも考えられます。

今後、箕面市民への多文化交流の機会提供の益々の充実化を以て、誰もが国際交流活動に参加できる気運を醸成し、市民に新たな生きがいを創出することを念頭に活動を推進させたいと思っています。

### クエルナバカ市

#### クエルナバカ市

人口約35万人のクエルナバカ市の街は、花が咲き乱れ、「永遠の春の街 [La Ciudad de la Eterna Primavera]」の愛称でよばれるほど、すばらしい気候と環境から、古くより首都メキシコ シティに近い保養地、リゾート地、そして近年では語学習得の場所として栄え、メキシコの人達の憧れの地となっている。



### 沿革

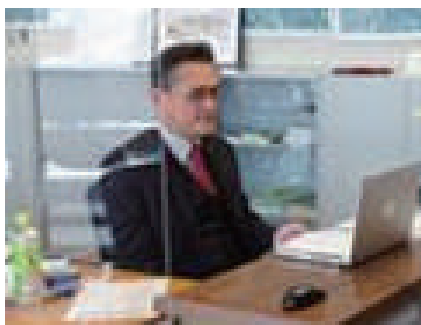
1992年よりモレロス大学日本語研修生のホームステイの受け入れを開始し、本年で29年目を迎える。  
2003年にはクエルナバカ市と国際友好都市提携を調印。

毎年秋に「メキシコ文化の夕べ」を開催、またメキシコへの旅行企画を実施し、現地の人たちと交流を図る。箕面祭りや国際交流協会主催の多民族フェスティバルでは、メキシコ料理や文化紹介の出店を行う。



## 未来に向けて

### ■ 姉妹都市交流の未来像 ■



上島市長

本日は、目から鱗の素晴らしいフォーラムを有難うございました。倉敷市の事例も知り、また、改めてハットクラブ、友の会の意気込みを感じました。

ハットクラブは65名、友の会は50名の会員を有し、英語、スペイン語とそれぞれ言葉は異なりますが、ボーダレスに交流していただきたいと思います。

箕面市の国際交流と多文化共生を担う国際交流協会（MAFGA）と、メイプル文化財団と一緒に、日本の素晴らしい文化、芸術を国際交流の舞台で楽しんでいただくなど、箕面市としても、全面的にバックアップして行きますので、ハットクラブ、友の会も一緒となり、国際交流を進めて行こうではありませんか。

## ■ まちづくりと国際交流 ■



箕面市ハット市友好議員連盟  
神代さん

箕面市のまちづくりのひとつの柱として国際交流があります。なぜ、まちづくりと国際交流が結びつくのか。それは双方とも初めの第一歩が同じだからです。

まちづくりの三つのステップは「知ろう」「愛そう」「つくろう」

です。まず自分たちのまちのことを「知ること」から始まります。「知ること」によって愛着が生まれてきます。愛着が生まれると、自分たちでまちをデザインしていこうという機運が高まります。これがまちづくりの三つのステップです。一方、国際交流はどうでしょうか。例えば、箕面からニュージーランド・ハット市へ訪問し、ハット市の方と交流をするとき、最初に聞かれるのは箕面のこと、大阪のこと、日本のことです。自分たちが我がまちのことを知らなければ国際交流は始まりません。国際交流の初めの第一歩も、自分たちのまちのことを「知ること」なのです。

現在、箕面市には90カ国、約2,700人の外国人の方が

住んでいます。そして、大阪大学外国語学部が、船場地区へ移転され50カ国を超える国と地域から留学生たちがやってきます。船場地区は箕面市の新しい文化国際交流の拠点として生まれ変わろうとしています。

グローバルな視野での文化国際交流拠点としてふさわしいのが、新しい箕面の玄関口である船場地区であり、今後箕面市として、芸術文化や国際交流の諸活動を地域経済や地域活性化につなげていく国際創造都市『クリエイティブシティ箕面』をめざすべきです。

ハード整備はされました。今後は、ハードをいかにソフト面を充実する必要があります。その中心となるのが姉妹都市交流フォーラムを企画された「ハットクラブ」と「友の会」の皆さんだと確信しています。

このフォーラムを機に、両団体が連携し、箕面市の国際交流をより市民に開かれた、身近な存在に発展されることを祈念するとともに、箕面市ハット市友好議員連盟として、全力でサポートしていきたいと考えています。

## まとめ

本日のフォーラムを通して、箕面市、ハットクラブ、友の会では、創意工夫され活発に活動されていることが報告されました。同時に、いくつかの課題や改善点が発見されたのではないのでしょうか。その中から、3つの課題について考えてみましょう：

### ① 魅力のあるプログラムづくり

多様な市民ニーズ全てに応えるとの意味ではなく、事業の企画・立案から実施に至るプロセスを透明化して、姉妹都市交流に参加・参画する市民をいかに増やすかです。例えば、ハットクラブの場合、会員の中でもサービスを提供する側とサービスを受取る側が固定化している傾向がありますが、一人ひとりの会員の意志に基づいて、どの役割を担うのかを決められるフレキシブルな事業運営や組織マネジメントが求められているように思えます。

### ② 体制とネットワーク

姉妹都市交流を推進するための「体制とネットワーク」で、行政や国際交流協会、市民団体の役割分担を明確にすることです。実際に事業を動かし、広く市民の参加・参画を実現するには、関係団体のニーズを吸い上げ、また団体間の風通しの良くするコーディネーター、つまり中間支援の役割が重要で、その役割をどの団体が担うのかを明確にしておくことが必要です。

### ③ 持続可能な組織づくり

これは、「魅力のあるプログラムづくり」と表裏一体のもので、女性の社会進出や定年延長等により就労する人が増えており、市民

団体やボランティア団体の後継者の不足は深刻です。いかに世代交代を図っていくのか、いかに魅力のあるプログラムを発信し続けられるのかは、経営資源の効率化による組織基盤の強化や市民ニーズを把握するマーケティングの必要性と深く関わって来ます。

その他にも多くの課題を姉妹都市交流団体は抱えており、本日のように団体の壁を越えてフォーラムを開催することは、単に課題の共有だけではなく、その解決に向けての協働にもつながり、箕面市の姉妹都市交流の未来は明るいと確信しております。

(ハットクラブ 阿部一郎)

## 参加者の声



箕面市と2つの姉妹都市の経緯や「ハットクラブ」と「友の会」のこれまでの活動をご紹介いただき、活発な交流が行われてきたことを知ることができました。倉敷市の姉妹都市交流の紹介など、国内外の各地を同時につなぐ Zoom 開催ならではの醍醐味が味わえました。これからの箕面市の国際交流のあり方は、国際的な活動をしている一部の人々だけでなく、広く市民に浸透していくことを望みます。特に、若い世代や子供たちが広い視野を持てるような参加機会を期待します。

(山根ひとみ)

# ハットクラブからのお知らせ

1. 総会は、今年度も開催出来ず、会員の皆さまには、書面での議案承認をお願いしました。

## 2021年度運営委員・監事名簿

会長 / 阿部 一郎

副会長 / 川島 一彦、六角みよ子、窪 敏夫

会計 / 東條 暁之(新)

委員 / 東 三貴子、加藤 俊明、平井 美矢子、山根 ひとみ(新)

監事 / 片芝 賢二(新)

顧問 / 小枝 正幸、佐藤 徹

## 行事・定例活動予定

ワイン試飲会、多民族フェスティバルへの参加、キウイパーティー、  
第2回姉妹都市交流フォーラム等を予定しておりますが、その時点での新型コロナウイルスの感染状況やワクチンの接種状況を考慮して決定します。

## 2. ハット市史『ローワーハット：最初の庭園都市』翻訳・出版のお知らせ

ハット市の市制100周年を記念して発行された原書を翻訳・出版することはクラブ創立20周年記念事業の一環でしたが、昨年(2020年)6月の出版をもって無事に終了しました。6人の会員が2015年秋から分担して翻訳を進め、さまざまな困難を克服して2019年春に脱稿。出版費用は会員からの寄付を中心に自己調達しました。

編集作業が始まった2020年春には新型コロナウイルスのパンデミックと重なりましたが、何とか出版に漕ぎつけました。足掛け6年にわたるチャレンジが成功したのは、多くの方々のご理解・ご協力のおかげであり、心より感謝いたします。



## 3. ハットクラブだより第50号編集後記

1年半振りの今号発行ですが、3月開催の「箕面市姉妹都市フォーラム」の特集号としました。その多くの内容をお知らせすべく長文の内容となりましたが、姉妹都市の歴史、意義、交流の具体例、未来への展望が語られており、広く皆さまの参考になれば幸いです。



発行日：2021年6月

編集：片芝賢二、加藤俊明